

現代文化分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	担当教員	授業概要
01DE303	文化生成論IIA	2	1.5	1・2	春ABC	濱田 真	近代から現代にかけてのドイツの主要な文化論を取り上げて、文化形成の諸問題について考察する。特に18世紀の啓蒙主義から19世紀のロマン主義にかけての歴史哲学、解釈学、芸術論に焦点を当てる。
01DE304	文化生成論IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	濱田 真	近代から現代にかけてのドイツの主要な文化論や芸術論を取り上げて、文化・自然・歴史をめぐる議論にどのような変化が見られるのかを考察する。
01DE307	文化動態論(1) IIA	1	1.5	1・2	春ABC	清水 知子	ポストヒューマニティーズの文化について哲学、芸術、科学、人類学の交錯する理論的な地平を探る。
01DE308	文化動態論(1) IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	清水 知子	新しい唯物論とフェミニズム、とりわけエコフェミニズムに関する理論的な地平を探る。
01DE311	文化動態論(2) IIA	2	1.5	1・2	春A 春BC	山口 恵里子	人類学と美術史のアプローチを接続させ、「イメージ」を人類学的現象として捉える。西洋中心主義的な芸術規範に基づく「芸術作品」の枠組みを問い直すことになる。
01DE312	文化動態論(2) IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	山口 恵里子	イメージ人類学のアプローチを具体的な事例に適用することを試みる。非西洋の文化圏における「モノ」の研究、西洋の「芸術」、「人工物」といった境界を無効にする「イメージ」研究の可能性を開く。
01DE315	文化構造論IIA	2	1.5	1・2	春A 春BC	佐藤 吉幸	現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な理論を習得する。今年度はネグリ=ハート『アセンブリ』を読解し、グローバル化と新自由主義の時代における社会運動の可能性について考察する。文化構造論IIBと連続して授業を行う。
01DE316	文化構造論IIB	2	1.5	1・2	春A 春BC	佐藤 吉幸	現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な理論を習得する。今年度はネグリ=ハート『アセンブリ』を読解し、グローバル化と新自由主義の時代における社会運動の可能性について考察する。文化構造論IIAと連続して授業を行い、学生と教員との議論を通じて理解を深める。
01DE319	文化対照論IIA	2	1.5	1・2	春A 春BC	対馬 美千子	異なる文化を照らし合わせるにより見えてくる文化の側面について、主に文学や思想の文献を講読することにより探求する。とくに現代文化の言語に関わる諸現象について様々な角度から考察する。
01DE320	文化対照論IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	対馬 美千子	異なる文化を照らし合わせるにより見えてくる文化の側面について、主に文学や思想の文献を講読することにより探求する。とくに現代文化の表象に関わる問題について様々な角度から考察する。
01DE323	文化差異論IIA	1	1.5	1・2	春A 春BC	竹谷 悦子	国家の枠組みを超えたトランスナショナルなネットワークをフェミニズムの座標軸から読み解く。
01DE324	文化差異論IIB	1	1.5	1・2	秋A 秋BC	竹谷 悦子	国家の枠組みを超えたトランスナショナルなネットワークを人種の座標軸から読み解く。
01DE327	文化現象論IIA	2	1.5	1・2	春A 春BC	江藤 光紀	文化現象のさまざまな現れについて研究する。おもに20世紀以降から現代の欧米、日本の芸術および文化事象を扱う。
01DE328	文化現象論IIB	1	1.5	1・2	秋A 秋BC	江藤 光紀	20世紀以降から現代の欧米、日本の芸術および文化事象が、どのように現象するのかについて、文献を読みながら討論する。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	担当教員	授業概要
01DE339	異文化地域論(1) IIA	1	1.5	1・2	春A 春BC	畔上 泰治	ドイツ語圏を中心に、ヨーロッパ地域における20世紀以降の社会・文化を対象にします。とくにさまざまな価値観の総意から生じた衝突を見て行きます。
01DE340	異文化地域論(1) IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	畔上 泰治	現代ヨーロッパ地域における20世紀以降の社会・文化の諸問題を見ていきます。とりわけドイツ語圏の諸問題を扱う予定です。
01DE347	異文化地域論(3) IIA	2	1.5	1・2	春ABC	宮崎 和夫	スペイン帝国支配下(16-17世紀)の諸地域の文化の様々な側面を、ヨーロッパまたはヨーロッパ以外の諸地域の文化との対峙と交流の観点から考察する。
01DE348	異文化地域論(3) IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	宮崎 和夫	スペイン帝国衰退期(17世紀)の社会と文化の諸相、とりわけヨーロッパ近代社会や近代文化の萌芽的要素を探索する。
01DE351	異文化交流論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	馬籠 清子	異なる芸術分野(文学・音楽・美術など)の接点を分析する。
01DE352	異文化交流論 IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	馬籠 清子	春学期に引き続き、異なる芸術分野(文学・音楽・美術など)の接点を分析する。
01DE357	言語文化論 IA	2	1.5	1・2	春C	廣瀬 浩司	フランス語圏の言語文化の諸問題を幅広く考察する。フランス語文献を使用する。非常勤講師による授業。
01DE363	科学文化論 IIA	2	1.5	1・2	春A 春BC	廣瀬 浩司	科学的知と身体性の関係などにつき、文献を講読する。
01DE364	科学文化論 IIB	1	1.5	1・2	秋A 秋BC	廣瀬 浩司	現象学やフランス現代思想をはじめとする二〇世紀思想、科学論、心理学などの成果を意識しながら、科学と文化の関係についての文献を精読する。
01DE367	境域文化論 IIA	2	1.5	1・2	春A 春BC	中田 元子	19世紀後半のイギリスにおける女性の職域と移動の自由の拡大について、当時の新聞、雑誌、文学作品などによって考察する。
01DE368	境域文化論 IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	中田 元子	19世紀後半のイギリスにおける女性の職域と移動の自由の拡大について、当時の新聞、雑誌、文学作品などによって考察する。
01DE371	イメージ生成論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	吉野 修	現代文化をイメージが生成し消滅する現場ととらえ、言語的表現や映像芸術におけるイメージの諸相とその意義を論考する。
01DE372	イメージ生成論 IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	吉野 修	文学作品や現代芸術の作品などを分析対象にして、イメージが生成し消滅するプロセスが表象システムとどのように関係するかという問題を検討する。

言語情報分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	担当教員	授業概要
01DE411	言語情報論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	宮腰 幸一	日本語のヴォイス(特に受動と使役)について、他言語との比較・対照をしながら考察する。
01DE412	言語情報論 IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	宮腰 幸一	春学期に引き続き、日本語のヴォイス(特に受動と使役)について、他言語との比較・対照をしながら考察する。
01DE419	異文化言語比較演習 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	柳田 優子	生成文法理論の理解を深めるために基本的文献を講読する。日本語、英語に焦点をあて、文や動詞句、名詞句構造に関わるテーマを扱う。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	担当教員	授業概要
01DE420	異文化言語比較演習 IIB	2	1.5	1・2			共時的、通時的な観点から、日本語、英語を中心とした諸言語の文、動詞句、名詞句構造に焦点をあて、言語間の違いを類型論の立場から検討する。
01DE423	異文化言語習得論 IIA	2	1.5	1・2	春A 春BC	卯城 祐司	外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に読み手の知識や経験、関心、スタイルおよび認知的な要因が「読み」にどのような影響を与えているのか、読み手の心の中に生じているプロセスの分析を試み、リーディング能力の優劣はどのような要因から決定されるのか探る。
01DE424	異文化言語習得論 IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	卯城 祐司	外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。その応用としてリーディング能力獲得への英文読解指導法を提言する。さらに、理論と実践研究にかかわる諸問題を考察していく中で、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、外国語習得理論および英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザインについて学んでいく。
01DE427	異文化言語教育評価論 IIA	2	1.5	1・2	春A 春BC	平井 明代	言語評価及びテスト作成の理論を学ぶ。授業評価や研究計画を立てる際に必要な知識を身につける。また、実際にさまざまな評価・統計手法を使うように演習する。
01DE428	異文化言語教育評価論 IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	平井 明代	仮説検証型の研究を実施するための、さまざまな最新の統計手法を学ぶ。また、研究テーマを絞り、研究発表を行なっていく。
01DE431	異文化言語教育教材論 IIA	2	1.5	1・2	春ABC	久保田 章	言語教材論の観点から、言語の習得と教授にかかる理論的、実践的研究に関する文献を講読し、問題点について議論する。特に認知的な研究を背景として、教材論の体系化をめざす。
01DE432	異文化言語教育教材論 IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	久保田 章	言語教材の開発と第二言語習得研究の関係について、教材の評価等の観点から具体的に考察する。
01DE455	異文化言語演習 (1) IIA	2	1.5	1・2	春ABC	磐崎 弘貞	本授業の目的は、(a) APAスタイルによって、論文執筆するための表現練習を行い、(b) 論文での表現力を高めるためのコーパスその他の検索ツールを学ぶことである。
01DE456	異文化言語演習 (1) IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	磐崎 弘貞	本授業の目的は、(a) 英語論文/資料の要約方法を学び、(b) 研究メモ/資料から実際の論文を執筆する手法を学ぶことである。毎回の課題提出と添削から、実際の論文執筆に即して、こうした点を具体的に学んでいく。
01DE459	異文化言語演習 (3) IIA	2	1.5	1・2	春ABC	住大 恭康	特定の状況・脈絡において使用されるドイツ語表現を分析し、その意味論的・実用論的機能を考察する能力を身につける。特に、機能語とされる表現が文内・テキスト内で果たす意味論的機能について、他の類似的・相補的な表現と比較しながら検討する。
01DE460	異文化言語演習 (3) IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	住大 恭康	特定の状況・脈絡において使用されるドイツ語表現を分析し、その意味論的・実用論的機能を考察する能力を身につける。特に、実際に使用される表現を持つ、会話における機能について、他の類似的・相補的な表現と比較しながら検討する。
01DE463	異文化言語演習 (4) IIA	2	1.5	1・2	春ABC	佐々木 勲人	中国語の文法に関する論文を読み進めながら、中国語の諸現象について考える。問題設定の方法や分析の手順など、研究方法を学ぶこともこの授業の目的の一つである。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	担当教員	授業概要
01DE464	異文化言語演習(4) IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	佐々木 勲人	中国語の文法に関する論文を読み進めながら、中国語の諸現象について考える。研究テーマをどのように設定するか、またそれをどのように分析していくかなど、研究方法を学ぶこともこの授業の目的の一つである。
01DE479	異文化言語演習(2) IIA	2	1.5	1・2	春ABC	小野 雄一	コンピュータ、情報通信技術(ICT)を活用したダイナミックな外国語教育の理論と実践に関する文献を講読し、近年のComputer-Assisted Language Learning (CALL)、Technology Enhanced Language Learning (TELL)、およびe-Learningの背景となる理論を教育工学的視点から理解する。
01DE480	異文化言語演習(2) IIB	2	1.5	1・2	秋A 秋BC	小野 雄一	最近のComputer-Assisted Language Learning (CALL)における実践研究に着目し、学生自身のPCを活用しながら多くのハンズオンを実施し、高等教育機関の授業におけるICTスキルの向上を目指す。
01DE481	言語コミュニケーション論A	1	1.0	1・2	春AB	井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行為としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して解釈・記述する方法について学ぶ。授業では言語人類学、社会言語学の概論書および基本論文の講読をもとにを討議を行い、言語人類学の抱える問題意識について認識を深め、分析の視点と方法論についての知識を身につける。
01DE482	言語コミュニケーション論B	2	1.0	1・2	秋AB	井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行為としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して解釈・記述する方法について学ぶ。授業では言語人類学、社会言語学の概論書および基本論文の講読をもとにを討議を行い、言語人類学研究の抱える問題意識について認識を深め、分析の視点と方法論についての知識を身につける。
01DE483	相互行為論A	1	1.0	1・2	春AB	高木 智世	様々な言語使用状況の中でも最も一般的で社会的活動の根幹を成す「日常会話」を、社会学者であるSacks, Schegloff, Jeffersonらによって創始され、開発された「会話分析」の方法で分析する視点を学ぶ。分析の構えや基本的概念についての講義、および、具体的な事例の分析を通して、「会話分析」の手法の基礎を身につける。
01DE484	相互行為論B	2	1.0	1・2	秋AB	高木 智世	様々な言語使用状況の中でも最も一般的で社会的活動の根幹を成す「日常会話」を、社会学者であるSacks, Schegloff, Jeffersonらによって創始され、開発された「会話分析」の方法で分析する視点を学ぶ。分析の構えや基本的概念についての講義、および、具体的な事例の分析を通して、「会話分析」の手法の基礎を身につける。